



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYAOYA 通信



学びのホームグラウンド じんけん楽習塾

8月5日のじんけん楽習塾は「男性特権との向き合い方／闘い方～日本軍戦時性暴力問題解決運動に学ぶ～」がテーマです。講師は近藤 凜太郎さん（一般社団法人希望のたね基金《キボタネ》運営委員）です。

龍谷大学・関西大学・奈良大学ほか非常勤講師。
一般社団法人希望のたね基金(キボタネ) 運営委員。

みんなのふりかえり 5回目 7/22

産婦人科医の相談現場の話し ～生きづらさを抱えた方々の 周囲の人の役わり～



藤田圭以子さん

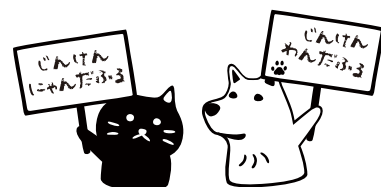
(系氏クリニック / プライドセンター大阪)

5回目は、現役産婦人科医の藤田さんにお越しいただきました。産婦人科医の傍ら、LGBTQの方たちの相談員もなさっています。特に、トランスジェンダーの子どもたちを苦しめている課題について、藤田さんが受けた相談事例をもとに参加者同士で話し合いました。休憩時間には藤田さんが持参してくれたおススメの本を囲み、ミニ座談会が開かれました。



<参加者の感想&ふりかえり>

- 当事者ぬきにして決めることはしない。これはすべてに言えることだと思います。よかれと思ってしたことが、生きにくくしていることもあると改めて感じました。
- 「自分のことは自分で決める」当たり前のことなのに、とても難しいことだと感じた。本人の意思を尊重するという人の言葉の中に、無責任な響きを感じることも多く、迷いが生じました。本当に自分のことを自分で選べる環境にあって、初めて本当に選べるのだと感じました。そもそもその環境をつくらなければならないと強く感じました。ありがとうございました。
- 違いは間違いじゃない、が印象に残りました。性的マイノリティに限らず人権共通の言葉と思います。子どもたちの居場所を作っていく大人でありたいと思います。
- 本人を抜きに決めないで、というのはいちばん心に響きました。おとなや学校や社会の都合で決められてしまう、我慢を強いられるのは誰にとっても生きづらいことです。一人ひとり話





を聞くことも大事なことで、一括りにイメージして勝手に分かったつもりにならないようにしたいです。

●とても分かりやすく、やわらかい口調ですって入ってきました。

当事者の想いをきく。当事者が決めるを意識して、本も読んで、さらに学びたいと思います。

●子どもたちがおかれている現状、学校現場での対応など、丁寧にお話をいただきありがとうございました。特に、アウティングや学校ならではの情報共有のあり方など、とても分かりやすかったです。本人のためという勝手な思い込みではなく、あくまでも本人の意志を尊重することが大切だということを改めて確認しました。

●当事者の気持ちを知ることができて、より理解が深まりました。学校や社会の環境の課題だらけだと思いました。カミングアウトやアウティングのこと、わかりやすかったです。本人を尊重することに尽きるなと思いました。信頼して話してくれること、大切にしたいです。

●ジェンダーに関して特にトランスジェンダー、クィア（その他もだが）に関してなかなか理解しづらくモヤモヤがはれないうえに、「知る」「尊重」「実行」の話を聞いていて少し楽になった。

全体？を理解しようなんてそう簡単にできるはずがない。だってひとりひとりみんな違うのだから。

もしある人が自分の事を話してくれたなら、解釈せず（理解しようとせず）そのままを受けとめ（そうなんや）る事を心がけよう。

●遺伝子に組み込まれた本能と聞くとすごくショッキングでしたがだからこそ学ぶことが大切だなと思いました。家族にも理解されないなんてとても孤独で悲しいし「きも！」ってたった一言やけど誰かの心を殺してしまうということ常に忘れずいたいと思います。書籍も沢山紹介していただけてとても良い時間でした。（さち）



沢山の書籍を紹介していただきました



★今回の OYAOYA 川柳★

家族にも言えない辛さ抱えてる（さち）



連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。

後でメールまたは、ファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。（公開だめなものはオープンにしません）

写真を撮影しますが、OYAOYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。